

2 (2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立て

日々の授業において「主体的・対話的で深い学び」の視点を基に質的改善を図るためには、どうすればよいでしょうか。「対話的な学びが大切だから、話し合いをさせよう」「ペア学習とグループ学習をさせてみよう」という声を聞くことがあります。授業の中に話し合いを取り入れれば、「対話的な学び」は実現するのでしょうか。今回の学習指導要領の改訂に際して、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」には、「主体的・対話的で深い学び」について、「形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく、子供たちそれぞれの興味や関心を基に、一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出すことを意図するものであり、さらに、それを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものである」⁽¹⁾と示されています。日々着実に行われてきたこれまでの授業を否定するということではなく、これまで以上に質的に高めていくことが求められているということです。新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の視点からの質的改善とは、言い換えると、これまで「無自覚に行ってきた（自然と成果が出ていた）手立て」や「よいと言われる、思われる手立てを無自覚に行ってきた自身の授業」を『主体的・対話的で深い学び』とはどのような学びか「目の前の児童にどのような資質・能力を身に付けたいのか」を「自覚」して、授業を改善するということだと考えます。

以上の考えを踏まえ、本研究委員会では、個々の教師が、児童の実態と自身の授業の実態を十分に把握した上で、授業の質的改善を図ることが大切だと考えます。児童の実態は、学校、学年、学級によって違っており、個々の教師の指導も同様に違っていると考えるからです。目の前の児童の実態は、日々の教師の指導の結果であるという考えの下、本研究委員会では、授業の質的改善の手順を図1のように考えました。

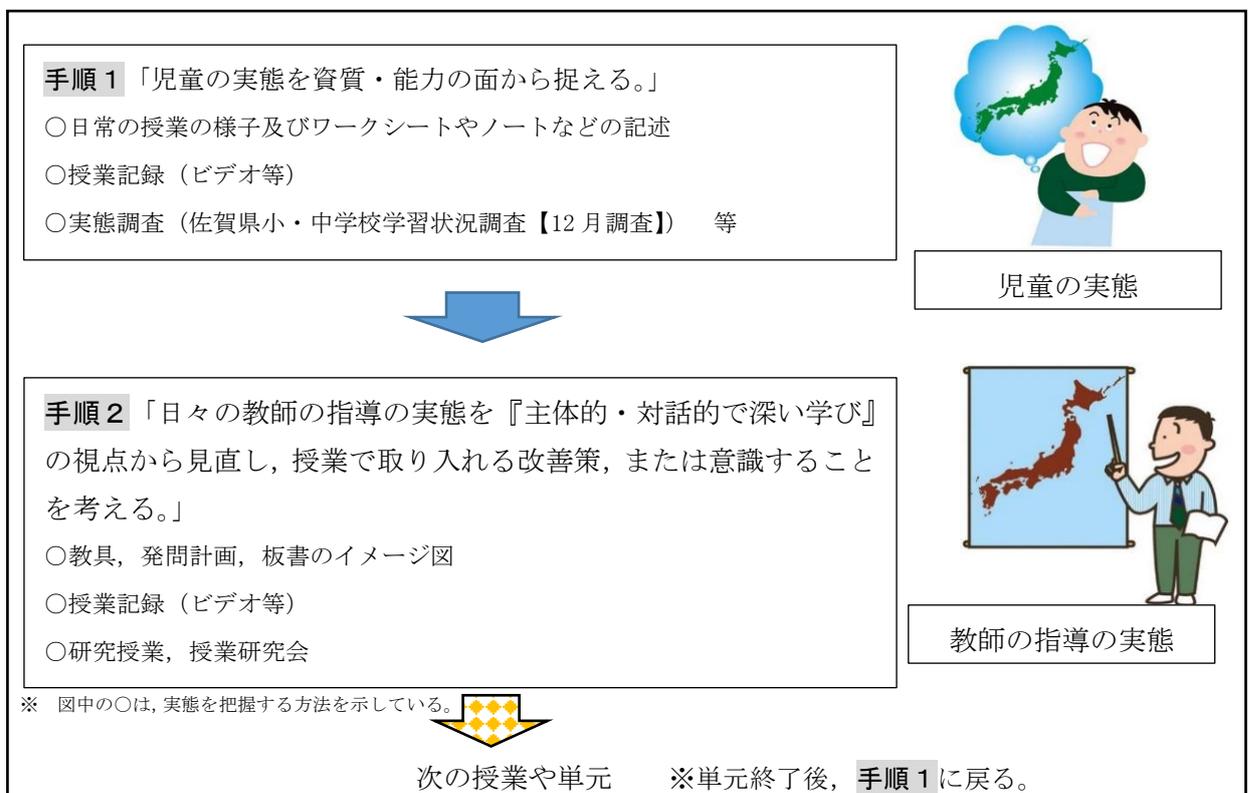


図1 授業の質的改善の手順

本研究では、前頁図 1 の手順に沿って、日々の授業の質的改善を無理なく進めることができるように、手引きを作成しました。授業の質的改善を行うには、児童の実態把握を十分に行うことが必要です。手引きには、社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ（図 2）を基に、それぞれの学習過程「課題把握（動機付け、方向付け）」「課題追究（情報収集、考察・構想）」「課題解決・新たな課題（まとめ・振り返り）」における児童の具体的な姿を整理しました。具体的には、各学習過程の中に 2(1)新学習指導要領に関わる理論研究で捉えた「育成を目指す資質・能力」に基づく児童の姿を起こしました（次頁図 3）。手順 1 では、図 3 の手引きを使って、児童の実態を資質・能力の面から捉えます。手順 2 では、次頁図 4 の手引きを使って、日々の教師の指導の実態を『主体的・対話的で深い学び』の視点から見直し、改善できることはないかを考え、授業で取り入れる改善策または意識することを決定します。その後、改善策を取り入れた授業を行った結果、児童がどのように変容したかを、手順 1 と手順 2 に戻って見取ります。手順 1 と手順 2 を單元ごとに繰り返していくことで、教師の授業が質的に改善され、その結果、児童に三つの資質・能力が育成されていくと考えます。

なお、図 3 と図 4 に示している手引きは簡易版です。先生方に携帯していただき、手軽に社会科の授業づくりに取り組んでもらうことを目的に作成しています。ただ、簡易版ということで、具体的な児童の姿や取り入れる手立てがイメージしにくい先生もいらっしゃると思いますので、文献調査や研究委員の先生方の実践を基に詳細版（4 頁図 5）（4 頁図 6）を作成しました。こちら、ぜひご活用ください。

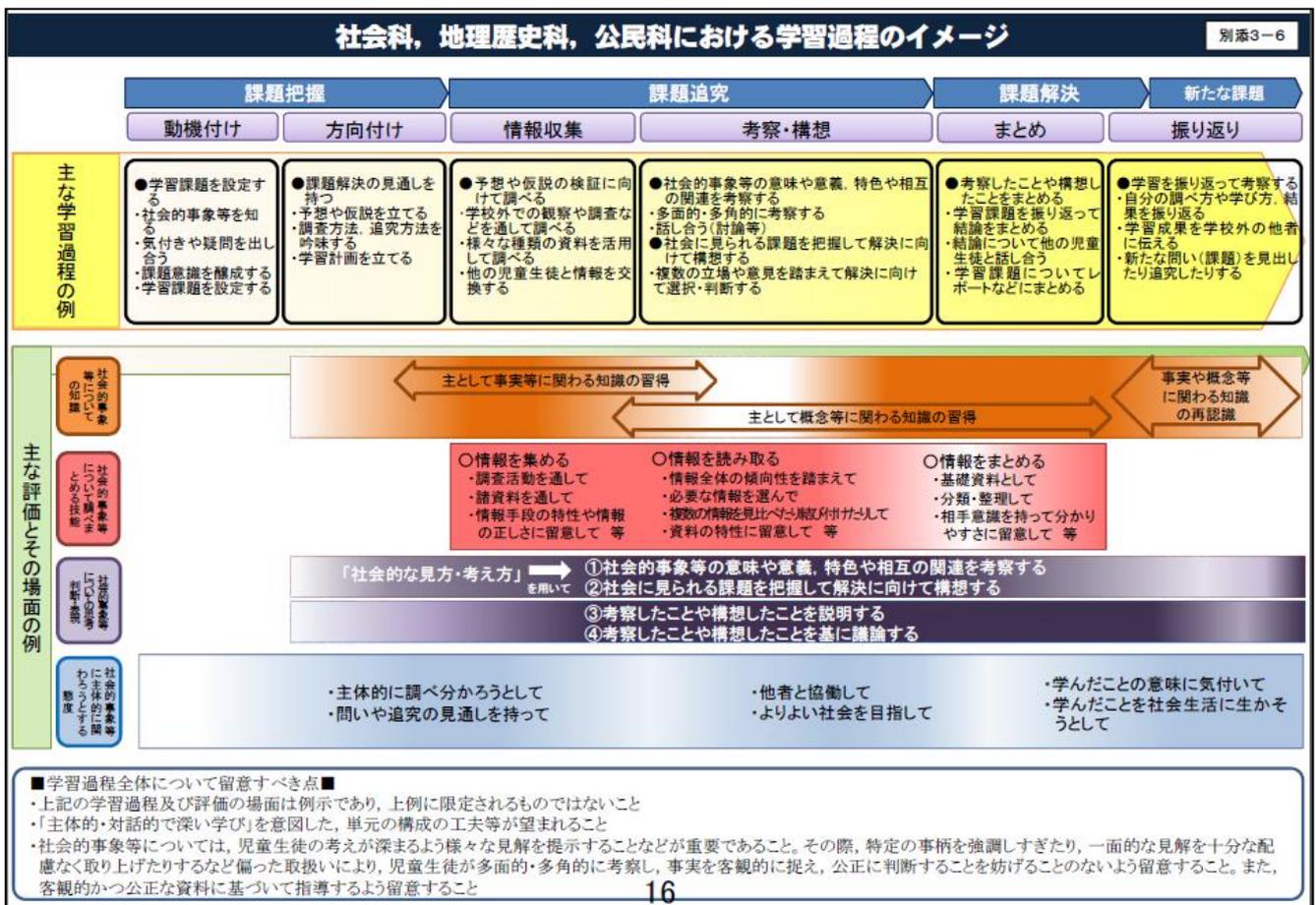


図 2 社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ⁽²⁾

手順 1 【児童の実態を資質・能力の面から捉える。】

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
知識・技能	(1) 個別の具体的な知識に関する内容を記述することができる。□⇒C①②③④⑤ (2) 個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて(つなげて)、記述することができる。□⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⇒D①⑩⑪ (3) 個別の具体的な知識に関する内容を総合して(まとめて)、記述することができる。□⇒C①②③④⑤⇒D①⑧⑨⑩⇒E①②③④					
思考力、判断力、表現力等	(1) 学習問題や学習課題(本時のめあて)を解決するために必要な資料を集めることができる。□⇒C①②③ (2) その資料がどのような資料か分かっている。□⇒C⑥⑦⑧ (3) 事実を正確に読み取っている。□⇒C④⑤⑥⑦⑧ (4) 学習問題や学習課題(本時のめあて)を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。□⇒B①⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (5) 目的や自分の意図に基づいてまとめることができる。□⇒C⑥⑦⑧⑨⑩					
主体的に学習に取り組む態度	(1) 資料を基に気付きをもつことができる。□ ⇒A①② (2) 資料を基に疑問をもつことができる。□ ⇒A①②③ (3) 疑問に対して、予想を考えることができる。□ ⇒A⑤⑥ (4) 気付きや疑問から、キーワード(問い)をつくることができる。□ ⇒A④⑤⑥⑦ (5) キーワード(問い)を関連付けて、大きな問いをつくることができる。□ ⇒A④⑦⑧⑨	(1) 学習問題に対して、予想を考えることができる。□ ⇒B① (2) 自分が調べたいことを考えることができる。□ ⇒B①② (3) 学習問題を解決するために、何をどのような方法で調べるとよいのか、具体的に考えることができる。□ ⇒B①②③	(1) 本時で分かったことを基に、学習問題の解決のために次から何を調べるとよいか考えることができる。□ ⇒C①②③④⑤⑥	(1) 調べた事実を基に、考えられることを導き出すことができる。□ ⇒C⑦⇒D①②③ (2) 資料を使って意見を述べたり、記述したりすることができる。□ ⇒D②③④⑤ (3) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考えることができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦ (4) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考えた上で、一番重視したい立場を選択することができる。□ ⇒D④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	(1) これまでに学習してきたことを基に、自分の考えをもつことができる。□ ⇒E①②③④ (2) 友達や考えを比較・関係付け、意見を述べたり、記述したりすることができる。□ ⇒E①②③④	(1) 学習した内容から似た事象や当てはまりそうな事象がないか考えることができる。□ ⇒F④ (2) 新たに調べたいことを考えることができる。□ ⇒F①②③
主体的に学習に取り組む態度	(1) 本時のめあてを解決するために、何を調べるとよいか見通しをもっている。□⇒B①②③⇒C①②③ (2) 今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようなつながっているの理解している。□⇒B①②③⇒C①②③④ (3) 社会的事象について、実感や切実感をもって調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。□⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ (4) 調べたことや考えたことを基に、今後の生活に生かせることはないか考えることができる。□A①⇒F①②③④					

図 3 各学習過程において育成をめざす資質・能力を整理したもの(手引き_1)

* 「学びに向かう力、人間性等」については、学習活動における評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」として表す。

手順 2 【日々の教師の指導の実態を『主体的・対話的で深い学び』の視点から見直し、授業で取り入れる改善策、または意識することを考える。】

学習過程	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
手立て	A①身近なことを題材に挙げる。□ A②資料提示の工夫(資料の一部を隠すなど)を行う。□ A③題材に対して気付きや疑問をもたせる。□ A④気付きや疑問を教師が意図的に仲間(キーワード)に分けて板書する。□ A⑤気付きや疑問に対して、問い返ししながら、児童に予想を出させる。□ A⑥自分の考えをもちやすい場面(予想など)で、自分と相手の意見が同じか違うか考えさせながら対話させる。□ A⑦気付きや疑問を基に、調べていきたいことを考えさせる。□ A⑧調べていきたいことを学習問題として書かせる。□ A⑨個別にもった学習問題を全体で交流し、学習問題を設定する。□	B①学習問題の解決のために何を調べるとよいのかを考えさせる。□ B②調べるとよい考えたことをグループで話し、何から調べたらよいか考えさせる。□ B③学習問題の解決のために何を調べるとよいのか調べる方法を考えさせる。□	C①学習問題を確認する。□ C②調べるとを回や表にし、単元全体を見通すことができるようにする。□ C③学習問題と学習計画を教室内に掲示し、常に振り返らせる。□ C④調べた内容(視点)を確認する。□ C⑤調べた内容について、予想をさせる。□ C⑥資料(写真、教科書等の文章等)を一つずつ確認し、どのようなことが分かる資料なのか考えさせる。□ C⑦教師が指示した資料で調べさせる。□ C⑧立場ごとに、資料を分けて提示する。□ C⑨様々な資料を見せ、読み取りの視点を増やす。□ C⑩学習問題や学習課題(本時のめあて)の解決に必要な情報であるのか考えさせる。□ C⑪調べた内容をペアやグループで伝え合わせ、確認させる。□ C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。□ C⑬学習問題について、学習課題(本時のめあて)とのつながりを考えて記述させる。□	D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。□ D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。□ D③根拠となる資料を確認する。□ D④話し合いの目的・ゴールを示す。□ D⑤考えをペアやグループで伝え合わせる。□ D⑥視点を基に、考えをもたせる。□ D⑦視点同士を比較させ、考えをもたせる。□ D⑧まとめ方を例示する。□ D⑨キーワードを挙げる。□ D⑩まとめ方に関する判定基準を示す。□ D⑪指示物を活用し、これまでの学習を振り返らせる。□	E①単元全体のまとめ方を例示する。□ E②キーワードを挙げる。□ E③単元全体のまとめ方に関する判定基準を示す。□ E④ノードやワークシート、掲示物などを活用し、これまでの学習を振り返らせる。□	F①新たな学習問題を提示する。□ F②社会的問題を含んだ資料を提示し、学習問題を設定する。□ F③ゲストティーチャーに新たな学習問題につながる情報を話してもらい、□ F④学んだことと自分たちの生活(自分のできること)をつなげて考えさせる。□

図 4 各学習過程において取り入れたい手立て(手引き_2)

手引きの詳しい使い方は、こちらから⇒ [ここをClick!!!](#)



資質・能力	児童の姿		こんな発言や記述はありますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	振り返る手立て
知識	(1)	個別の具体的な知識に関する内容を記述することができる。	・～は…だ。 ・～は…した。 ・～は、…している。		⇒C①②③④⑤
	(2)	個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて(つなげて)、記述することができる。	・～は、…のために ・～だから、…だ。 ・～すると、…になる。		⇒C①②③④⑤⑩ ⑫⑬ ⇒D①⑩⑪
	(3)	個別の具体的な知識に関する内容を総合して(まとめて)、記述することができる。	・つまり、～。 ・〇つをまとめると～。		⇒C①②③④⑤ ⇒D①⑧⑨⑩⑪ ⇒E①②③④
技能 (収集する 読み取る まとめる)	(1)	学習問題や学習課題(本時のめあて)を解決するために必要な資料を集めることができる。	・学習問題を解決するために、今日は〇〇(視点)について調べたらよい。 ・本時のめあてを解決するために、〇〇の資料が必要だ。		⇒C①②③
	(2)	その資料がどのような資料分かっている。	・この資料の縦軸と横軸は〇〇を表している。 ・この資料は〇〇を表している。		⇒C⑥⑦⑧
	(3)	事実を正確に読み取っている。	・〇〇がある。〇〇が～している。 ・増えている。減っている。 ・〇年に〇〇が起きた。 ・〇〇に比べると、〇〇は～だ。		⇒C④⑤⑥⑦⑧
	(4)	学習問題や学習課題(本時のめあて)を解決するために有用な情報を選んで読み取っている。	・〇〇について調べるためには、この資料が必要だ。		⇒B① ⇒C①②③④⑤⑥ ⑦⑧⑨⑩
	(5)	目的や自分の意図に基づいてまとめることができる。	・〇〇についてまとめるためには、白地図が適している。		⇒C⑥⑦⑧⑨⑩

図5 授業の質的改善の手引き(資質・能力)(詳細版)(一部抜粋)

手立て		指示・発問
A①	身近なことを題材に挙げる。	・〇〇について、これまで見たり聞いたりしたことはありますか。
A②	資料提示の工夫(資料の一部を隠すなど)を行う。	・ここには何が隠れているでしょうか。 ・この後、どのように変わるとお思いますか。 ・(複数の資料を比較させて)共通する(違う)ことは何ですか。
A③	題材に対して気付きや疑問をもたせる。	・この資料からどのようなことが分かりますか。 ・「どうしてかな?」「おかしいな」と感じることはありませんか。 ・みんなが知っている〇〇とどんなところが違いますか。 ・不思議に思うことはありませんか。 ・疑問に思うのはどんなところですか。
A④	気付きや疑問を教師が意識的に仲間(キーワード)分けして板書する。	・この気付きは、板書のどの気付きの仲間でしょうか。 ・この疑問は、板書のどの疑問の仲間でしょうか。
A⑤	気付きや疑問に対して、問い返しをしながら、児童に予想を出させる。	・どうしてそう思ったのですか。 ・どうしてそう予想したのですか。 ・どんな予想をしましたか。 ・～ですよね。～ということですね。(ゆさぶり)
A⑥	自分の考えをもちやすい場面(予想など)で、自分と相手の意見が同じか違うか考えさせながら対話させる。	・どんな予想をしましたか。どうしてそのように考えたのか、根拠や理由も言えるといいですね。 ・相手の話を聞いて、自分と同じか違うかを相手に伝えましょう。どうしてそのように考えたのか、根拠や理由も言えるといいですね。
A⑦	気付きや疑問を基に、調べていきたいことを考えさせる。	・みんなの気付きや疑問を基に、どんなことを調べたいですか。 ・みんなの気付きや疑問を基に、どんなことを調べなければならないでしょうか。
A⑧	調べていきたいことを学習問題として書かせる。	・これから調べていきたいことを基に、学習問題を書きましょう。 ・これから調べなければならないことを基に、学習問題を書きましょう。
A⑨	個別にもった学習問題を全体で交流し、学級の学習問題を設定する	・みんなが発表した学習問題の中で、何度も出てきた言葉(キーワード)は何ですか。 ・キーワードを基に、学習問題をつくりましょう。

図6 授業の質的改善の手引き(手立て)(詳細版)(一部抜粋)

引用文献

- (1) 中央教育審議会 『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成 28 年 12 月

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm

- (2) 中央教育審議会 『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 別添 3－6 平成 28 年 12 月

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_3_1.pdf